

	<p>令和元年9月20日(金) 学校だより9月② 第9号 福岡市立堤丘小学校 文責 校長 香川 雅博 TEL: 863-7611 / FAX: 863-7671</p>
--	--

【令和元年度3年・6年“学力・学習状況調査”等の結果について】

3年生及び6年生を対象として実施された各種学力・学習状況調査の結果が出ましたのでお知らせします。福岡市では、調査結果について、児童が取り組んだ問題の平均正答率が、福岡市及び全国の平均と比べてどのような状況にあるのかということを示す以下の4つの段階で表しています。

「上回っている」 / 「やや上回っている」 / 「同程度である」 / 「努力を要する」

＜実施された学力・学習状況調査＞

3年生	『福岡市学習定着度調査』	算数	7月実施
6年生	『全国学力・学習状況調査』	国語・算数	4月実施

◆3年生『福岡市学習定着度調査』結果

算数：「同程度である」

観点別に見ていくと、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」の観点において福岡市の平均と「同程度である」となっていますが、「数量や図形についての知識・理解」については、市の平均と比べて「努力を要する」となっています。

大問別に見ていくと、「ひき算とかけ算の文章問題」「倍の意味」「式の意味」の問題は、市の平均をやや上回っており、「四則計算」「たし算とひき算の筆算」の問題が、市の平均と同程度でした。「かけ算の意味」「計算のしくみ」「かけ算とわり算の文章問題」は、市の平均と比べ努力を要するという結果が出ています。全体的に見て、これまでの取組（学力パワーアップ／日常の授業での補充等）の成果も出ていて、全体の得点率は良いと思われます。

しかし、得点率の低い問題を見ていくと、「式や数値の意味を問われる問題」や「文章を読み取って答える／論理的な思考が必要な問題」が苦手であることが分かります。「倍の意味」の問題は、市の平均を上回っていましたが、全問の中では得点率が一番低く（全市的に低い）、「2つの数量関係を捉えて何倍かを見つける問題」等も苦手としている児童が多いことが分かります。

問題等を見ていて、やはり、数値や式の意味を考える問題、四則計算の様々な法則【交換／結合／分配】の問題、数量関係を捉える問題には、今までそれほど時間を割いて取り組むことができていないように思います。これからは、こういう問題にも時間を割いて繰り返し取り組めるように、学力パワーアップや補充の時間等で取り組んでいく必要があると考えています。また、文章問題も「文章の意味や数値の関係を捉えることができる読み取り方（線や囲みを使って視覚的に捉える等）」に全校で取り組むなど、力を入れていきたいと考えています。

◆6年生『全国学力・学習状況調査』結果

国語：「同程度である」 / 算数：「同程度である」

※本年度の全国学力調査より、昨年度までのように国語／算数において、A問題（主に知識に関する）／B問題（主に活用に関する）に分かれず、統合的な形としての出題に変わっています。

【国語】全国の平均と同程度である結果が出ています。特に正答率の低かったものは、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く（40～70字）」問題と「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめて書く（30～60字）」問題と「図表やグラフなどを用いた目的を捉え、選択肢から選ぶ」問題でした。

例年のことながら、「書くこと」に関しては課題にあまりあがり、授業の中で、“自分の考えや思いをまとめてノートに書いたり、ミニ日記のようなものを取り入れて文を綴ったり、友達との交流を通して考えを付加・修正して書き直したりするなど、「書く」活動を多く取り入れることを先生方と共通理解して取り組んでいるところです。簡単には結果が出ることではないとは思いますが、それでも自分の考えや思いを「書くこと」に十分に時間を割いて指導ができていない状況だと思えます。もう少し、学校全体で「書くこと」に取り組めるような内容を先生方と考えながら、「（思考の伴う）書く力」を伸ばしていきたいと思えます。また、“図表やグラフの目的を捉える”ことについては、社会科の資料活用能力の育成とも関係がありますが、社会科においても国語科においても、図表やグラフを活用して報告文や新聞等の発表物にまとめる／作成するという活動その際の指導が少なくなっていることが考えられます。このことは、やはり「書くこと」の活動と大きく関わっていますので、併せて取組の検討を進めたいと考えています。

【算数】算数も全国の平均と同程度である結果が出ています。特に正答率が低かったものは「ゴンドラ乗車の場面において、複数の数量から必要な数量を選び立式する」問題と「 $350-97$ の引く数を100にした式にして計算の式を解釈し数値を選ぶ」問題と「 $6+0.5\times$ を計算する」問題と「2つの棒グラフから1人あたりの水の使用量の増減を判断し、理由を記述する」問題でした。

6年生の結果も3年生と似ている部分があり、「四則計算のきまり」や「計算の工夫」の学習に十分に慣れていないことや「2つの数量関係の特徴や傾向を関連付けて見ること」などが苦手であること、そして、「文（出題）の意味をしっかりと捉え、必要な数量を選んだり立式したりすること」があまりできていないということです。これらの共通する部分の学力向上は、学校全体で再度共通理解を図って重点的に取り組む必要があると考えています。また、正答率の低かった問題には、やはり子どもたちが出題の形式に慣れていない部分もあり、今後、現在学校で使用している“アイテム”や“みんなの学習クラブ（委員会推奨プリント）”等の有効活用を図り、学力パワーアップや補充の時間、家庭学習の時間に多く経験させ補充を図っていくようにしたいと思います。



以上が本年度の3・6年生の学力学習状況調査結果ですが、子どもたちの学力向上（学力補充）には、時間と人手が必要です。現在、学校では教職員不足等で補助等の教員も減っています。本校には、「学力パワーアップタイム」があります。是非、多くの保護者の皆様のご協力をお願いできればと思います。また、家庭学習の定着や生活のリズム（早寝・早起き・朝ご飯等）も学力向上ととても結びつきが深いという結果が今回の調査でも出ています。是非、ご家庭でできることにはご協力をいただき、学校とともに、子どもたちの「できる・わかる」楽しさに結びつけていってあげましょう。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

